

旭硝子株式会社 2016年度第2四半期決算 主な質疑応答

経営企画部広報・IR室

Q 1 第2四半期営業利益の特殊要因が+30億円あるとのことだが、その内訳は？

A 1 約10億円が原油ヘッジ評価益で、これは前四半期末比で原油先物価格が上がったためです。残りは在庫評価益のほか決算処理などによるものです。

Q 2 欧州建築用ガラス事業の基調の見方について。今年前半、想定以上に好調だったのは冬場に価格が下落しなかったことが要因で、それは暖冬の影響で数量が減らなかったためか？

A 2 第2四半期に暖冬の反動がある可能性がありましたが、その影響は出ていません。実態経済の回復により、需要が増えていると考えています。

Q 3 2017年経営目標達成のためには来期に更なる増益が必要となるが、主なドライバーは？

A 3 ガラス事業：欧州を中心に大幅に改善しています。コストダウンが進展し、価格も上がっています。今期は値上げの効果が一部しか効いていない地域もあり、これは来年に増益効果が期待できます。

電子事業：電子部材は、今期上期は出荷が減少しましたが、この下期から回復する見込みです。スマートフォン市場の回復に頼るだけでなく、新製品も出して数量を伸ばしてきます。また、車載用のカバーガラスの出荷も増えていきます。液晶用ガラス事業も安定してきているので、電子部材などの他の事業でカバーすることで増益を目指します。

化学品事業：この下期からインドネシアにおける増設効果が貢献してきます。上期は、塩ビ製品のスプレッドが縮小したものの、前年比で増益を確保できています。原料のエチレン価格が上がっていますが、長期的にはシェール由来のエチレンが増え、価格は下がるとみています。フッ素製品の出荷も着実に伸びています。

以上